

## 「麻生大臣の経済・経済政策への認識が変わってしまった理由 をご存知ですか？」

令和元年 10 月 9 日

### ●どくたーさんからの質問

麻生大臣の経済・経済政策への認識が変わってしまった理由をご存知でしたら教えていただきたいです。数年前に三橋先生と麻生大臣が対談をしている動画が yotube にも残っていますが、現在の麻生大臣とは別人なのではないかと思うほど、経済について正しく理解をされており、大変驚きました。あの頃の麻生さんはどこへ行ってしまったのでしょうか…

### ●西田昌司の答え

どくたーさんのおっしゃられている動画については承知しておりませんが、麻生さんが変わってしまったということについては全く同感であります。

自民党が下野していた時代、私は、三橋貴明さん（経済評論家）や藤井聡先生（京都大学大学院教授）や中野剛志さん（当時、経産省から京都大学大学院へ出向し、助教あるいは准教授）といった方々と一緒に、麻生大臣（当時、衆議院議員）や安倍総理（当時、衆議院議員）をはじめとする自民党の名だたる先生を訪ねて、財政出動の必要性を訴えていました。

当時、与党である民主党が「コンクリートから人へ」なる愚かなスローガンを掲げ、「事業仕分け」なる TV ショーに興じて必要な予算をどんどん削っていました。そういった財政再建路線ではいつまで経ってもデフレから脱却できませんし、今こそ財政出動が必要だと我々は訴えていたのですが、そのように主張する我々に対して最も理解を示されたのが麻生大臣でした。

麻生大臣は財務大臣になられた頃、高橋是清（昭和の時代、財政出動により昭和恐慌を克服した「名」大蔵大臣として名を馳せた）をよく引き合いに出されていました。「自国通貨建ての国債は絶対にデフォルトしないが、皆そのことをわかっていないんだよ」といった正論を声高に述べられていたあの頃の麻生大臣が、何故、今になって（緊縮財政路線をひた走る）財務省の代弁者に成り下がってしまったのでしょうか。あの頃の麻生大臣に別の何かが乗り移ってしまったのでは、と勘繰ってしまうほどの豹変ぶりに、私も驚きを禁じえません。

財務大臣は、財務省という組織の総責任者ですが、財務省はその成り立ちからして均衡財政を目指す組織です。『財務省設置法』には「健全な財政の確保」と謳われていますし、財務官僚はある意味、その法律に肅々と従って働いている勤勉な役人に過ぎません。彼らが法に従順であればある程、財政再建を目指したり、国債の発行を嫌うことになりすし、財務大臣たる麻生大臣もそのくびきを逃れることが出来ないのでしょうか。しかし、法に縛られて信念が貫けないのであれば、法から財政規律の縛りをなくすよう省内で大いに議論すべきなのですが、全く出来ていません。結局、ミイラ取りがミイラになってしまったのです。

麻生大臣には是非とも正気に返っていただきたいですし、財務大臣の立場では財務省の変革が出来ないというのであれば、財務大臣を一旦辞められたら良いのです。閣外に身を置いたら今よりも自由な発言が出来るでしょうし、「財務大臣の立場では財務省設置法に沿った発言しか出来ない。法を変えないとにっちもさっちも行かないよ」と問題提起をすべきなのです。財務大臣の任命権は総理大臣にありますし、そう簡単には行かない事情もあるのですが、だからこそ私のような閣外の間人が声を大にして財務省の緊縮財政路線の転換を訴えていかなければなりません。

麻生大臣におかれましては、是非とも経世済民の原点に帰って考え直していただきたい、と切に願っております。

反訳：ウッキーさん

Copyright：週刊西田 <http://www.shukannishida.jp>